

# 今ある人生はまさに「爪上の土」。だからこそ、人間的成長に全力を

## 浄土宗西迎院副住職／尼僧アイドル 光誉祐華（元愛\$菩薩）

## 中村 祐華氏

「優（やまと）は国のまほろば」。今回はいつもの東京ではなく、古代の英雄ヤマトタケルノミコトが「まほろば」（＝素晴らしい場所の意）と形容した大和国、現在の奈良県に足を運びました。訪ねたのは、同県吉野郡にある浄土宗の寺院・西迎院です。開基600年の歴史を有する同寺の副住職を務める中村祐華さんにお会いしました。

中村さんは日常的な僧侶としてのお勤めの傍ら、この7月9日まで「愛\$菩薩」、それ以降は「光誉祐華」の名で、尼僧アイドルとしての活動に取り組んでいます。女性僧侶のアイドル活動と聞いて眉をひそめる向きもあるかもしれませんが、中村さんは若者が集まるライブハウスなどで、音楽に載せてお経を称えたり、仏教の教えを歌詞に込めたオリジナル曲を歌ったりするなどし、若者と仏教の出会いのきっかけをつくらうとしています。

現代的な感性を備える僧侶の目に、モラルや道徳、そして仏法が失われつつある現代社会はどう映っているのか、さまざまなことをお聞きしました。読者の皆様がお子さんの足元を見つめ、考えるきっかけになれば幸いです。

### 念仏の捉え方に宗派の違い

山門前に、松尾芭蕉が述べたとされる俳諧の心得が貼り出しており、目に留まりました。「格に入りて格を出る。格に入らざれば邪格に入る。格に入りて格を出れば、自在なり。」



住職を務める父が書いたものです。

俳諧に限らず、何事にも通用する格言だと思います。本日はお忙しいところ、お時間を割いていただきありがとうございます。

こちらこそ、遠路お越しいただき、恐縮です。

早速ですが、いわゆる世界三大宗教に数えられるのは、キリスト教、イスラム教のほかには、どの宗教があったのかは、ユダヤ教、ヒンズー教、仏教などがあります。

信者の数で言えばヒンズー教です。

浄土宗は平安末期の一一七五（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身には独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

浄土宗は平安末期の一一七五（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身には独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

浄土宗は平安末期の一一七五（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身には独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

浄土宗は平安末期の一一七五（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身には独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

浄土宗は平安末期の一一七五（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身には独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。



浄土宗は平安末期の一一七五（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身には独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

浄土宗は平安末期の一一七五（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身には独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

浄土宗は平安末期の一一七五（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身には独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

浄土宗は平安末期の一一七五（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身には独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

浄土宗は平安末期の一一七五（承安五年）に、宗祖である法然上人が京都の東山吉水で念仏の教えを広め、始まりました。そのお弟子が親鸞聖人で、自身には独立して宗派を立てる意思はなかったと言われている。

### 父の姿に見た 仏の道の奥深さ

一方、浄土宗の念仏には、地獄・餓鬼・畜生道に落ちたままの心で、日々の行いに対する懺悔と阿彌陀さまに救いを求める願いが込められています。

父方の祖父が亡くなり、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で、迫ってきた別れの悲しみと自分が何もできない無力感が私を苦しめていた。父が「最期に人を見ては、臨終行儀に則って送るのが一番いいんや」と教えてくれました。

父方の祖父が亡くなり、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で、迫ってきた別れの悲しみと自分が何もできない無力感が私を苦しめていた。父が「最期に人を見ては、臨終行儀に則って送るのが一番いいんや」と教えてくれました。

父方の祖父が亡くなり、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で、迫ってきた別れの悲しみと自分が何もできない無力感が私を苦しめていた。父が「最期に人を見ては、臨終行儀に則って送るのが一番いいんや」と教えてくれました。

父方の祖父が亡くなり、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で、迫ってきた別れの悲しみと自分が何もできない無力感が私を苦しめていた。父が「最期に人を見ては、臨終行儀に則って送るのが一番いいんや」と教えてくれました。

### アイドル+菩薩でインパクト重視

尼僧アイドルの活動はいつから始めたのですか。

二十五歳の時からです。大学を卒業してすぐに実家に戻り、父の手伝いを始めました。そこで驚いたのが、あまりにも若い人がお参りに来ないということでした。

お彼岸などの年中行事でも、若くて50代くらい。各家庭の法事を勤めて、お寺さんが都市部に就職し忙しなくて家に帰る時間が取れないとか、お孫さんがいても塾や習い事優先で法事に出ないという現状でした。

お彼岸などの年中行事でも、若くて50代くらい。各家庭の法事を勤めて、お寺さんが都市部に就職し忙しなくて家に帰る時間が取れないとか、お孫さんがいても塾や習い事優先で法事に出ないという現状でした。

お彼岸などの年中行事でも、若くて50代くらい。各家庭の法事を勤めて、お寺さんが都市部に就職し忙しなくて家に帰る時間が取れないとか、お孫さんがいても塾や習い事優先で法事に出ないという現状でした。

お彼岸などの年中行事でも、若くて50代くらい。各家庭の法事を勤めて、お寺さんが都市部に就職し忙しなくて家に帰る時間が取れないとか、お孫さんがいても塾や習い事優先で法事に出ないという現状でした。

### 仏教への関心は高校時代に

七月九日のワンマンライブを境に、名前を光誉祐華に変えることか。

今年で活動十年目を迎え、自然な気持ちになりました。改名するのタイミングは、新しいアーティスト名は、師匠である私の父が付けた戒名の一部を取ったものです。

少し落ち着いた感じへの路線変更といったところで、うか。現実のアイドル歌手も、歌のタイプや雰囲気を変えても、変えていきますからね。

今年で活動十年目を迎え、自然な気持ちになりました。改名するのタイミングは、新しいアーティスト名は、師匠である私の父が付けた戒名の一部を取ったものです。

少し落ち着いた感じへの路線変更といったところで、うか。現実のアイドル歌手も、歌のタイプや雰囲気を変えても、変えていきますからね。

島経営グループ 会長

島 善昭



浄土宗西迎院副住職／尼僧アイドル 光誉祐華（元愛\$菩薩）

中村 祐華氏

【Profile】 中村 祐華氏 浄土宗西迎院副住職／尼僧アイドル 光誉祐華（元愛\$菩薩）

なかむら・ゆうか。1982（昭和57）年奈良県吉野郡生まれ。佛教学科浄土学専攻卒業後、僧侶として実家の西迎院に入る。2007（平成19）年から「愛\$菩薩」を名乗り、「若者が仏様とご縁を結び架け橋になれるよう」、お経をトラック（曲）に合わせて称え、MCは法話、仏教的意味合いを込めたオリジナル曲で法事（ライス）活動をしている。今年7月からは、父親である住職が付けた戒名である「光誉祐華」に改名し、活動を続けている。アルバムCDは「菩薩 Revolution」、「菩薩 Calling」の2枚を発表。改名後にシングル「光」を発表。

### 殺生への鈍感さに強い危惧

とりわけ「生き物を殺すな」は大事ですね。実は昨年の秋、近所の中学校から命についての講演をしてほしいと頼まれました。そこでこんな話をしました。

父方の祖父が亡くなり、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で、迫ってきた別れの悲しみと自分が何もできない無力感が私を苦しめていた。父が「最期に人を見ては、臨終行儀に則って送るのが一番いいんや」と教えてくれました。

父方の祖父が亡くなり、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で、迫ってきた別れの悲しみと自分が何もできない無力感が私を苦しめていた。父が「最期に人を見ては、臨終行儀に則って送るのが一番いいんや」と教えてくれました。

父方の祖父が亡くなり、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で、迫ってきた別れの悲しみと自分が何もできない無力感が私を苦しめていた。父が「最期に人を見ては、臨終行儀に則って送るのが一番いいんや」と教えてくれました。

父方の祖父が亡くなり、祖父の容体がどんどん悪くなっていく中で、迫ってきた別れの悲しみと自分が何もできない無力感が私を苦しめていた。父が「最期に人を見ては、臨終行儀に則って送るのが一番いいんや」と教えてくれました。

世はないんだよ。清らかな世界を求め、自分を清めていく生き方こそが本当の幸せに到る道なんだよ、という仏教の考え方に接し、はっとしたんだと思います。

私も二十代後半の時に、経営コンサルタントの勉強に行った先で、家系図を書かされたことがあります。十代前までその中のどこかで、「縁」がなかつたら、今の自分はないんだからこそ、先祖というのは大事なんです、大事なんですとやかましく言われました。

それで、弊社では新卒でも中途でも、入社後の新入社員には必ず「親子の絆」という題で作文を書いてもらっています。両親への想い、身につけている道徳、親からどんな教育を受けていたかなど、いろんなことが分かります。

「知らない」というところに問題が潜んでいるんです。

そうですね。悪いと知ってやっちゃうのと、悪いと知らずにやり続けるのでは、罪の重さが違うとお釈迦様もおっしゃって、悪いと知ればこそ、自罰する気持ちが生まれて来ると思います。

「ごめんね」と思うか、「当たり前や」と思うかは、天と地ほどの差があると私も思います。

また、食べ物を「食材」と形容する世相も気になります。人が口にするのはすべて動物や植物などの命あるもので、それを「材料」と言い切ってしまう。世の中のこれと仏教の思想が随分かけ離れてきているなと肌で感じています。

確かに、命をいただく有り難みがこもっていない表現ですね。

自然からの恩恵に対する感謝や、自然に対する畏敬の念が幼い頃から教えられるって、核家族化で理由はあやういですが、家庭内での道徳の意識もすくなく低くなっていると感じます。

もちろん、すべての家庭がそうかという、そうでもない。将棋の藤井聡太四段が六月二日に二十連勝を果たした際、勝利後の報道陣からの質問に「優勝（きょうごう）としか言いようがない」と語っていました。

「優勝」という言葉を私は知らなかったのですが、テレビのニュースが終わった後、すぐに辞書で調べました。「偶然に得る幸運」という意味で、そんな難しい言葉を十四歳の中学生が謙虚に使えようというの、やはり家庭内での教育が関係していると考えざるを得ません。

きちんと道徳を教えられる家庭はまだ残っているとは思いますが、そうでない家庭も少なくありません。私の尼僧アイドルとしての活動が、仏法や道徳への気づきのおきっかけになれば幸いです。

ところで、作品に仏教の強い影響を指摘される作家として宮沢賢治がよく知られています。彼の場合は法華経という信者が、人から「人間は何のために生まれてくるのか」と尋ねられたところ、「それを考えるために生まれてきている」と答えています。

「生まれを問うことなれば行いを問え」。お釈迦様は、その人の生き方こそが、その人の価値を作っているとおっしゃっています。

私なりに言い換えると、限られた時間の貴重な人生をどう生きるか。環境や条件、他人のせいにはせず、自分自身と向き合って精進しようということですね。

経営者やビジネスリーダーの胸にも迫る言葉だと思えます。本日はありがとうございました。

こちらこそ、ありがとうございました。